

◆◇植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン vol.108◇◆

2019年7月12日号(第108号)

――◇◆ INDEX ◇◆――

1. RECTOR プログラム テニユア・トラック助教の公募について
2. 大学院入学説明・相談会のご案内
3. 共同研究(者)紹介 =第52回(連載)=
4. 最近の研究成果について
5. 研究成果の紹介:投稿のお願い
6. 編集後記

――◇◆◇◆――

1. RECTOR プログラム テニユア・トラック助教の公募について

岡山大学資源植物科学研究所では、RECTOR プログラム テニユアトラック助教(特任)1名を公募しています。締め切りは令和元年7月31日(水)(必着)です。多数の御応募をお待ちしております。

詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/recruit/public-offering201906.html>

2. 大学院入学説明・相談会のご案内

植物研では2ヶ月に1度、「大学院進学説明会」を開催しています。次回は2019年9月13日(金)13:00-17:00に開催します。対象は大学等の学部1年生以上の方です(社会人を含みます)。また、説明会当日には都合の合わない方のために「個別見学会コンシェルジュ」や「体験入学コンシェルジュ」なども随時開催しています。遠方からの来所の際には、倉敷ゲストハウスが1泊3,000円からご利用可能です。植物研の大学院に進学をお考えの方は、是非ご参加ください。また、興味のある方へのご周知もよろしくお願い致します。

詳しくは、以下のホームページでお知らせしております。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/education/education4.html>

研究所の近くには、倉敷美観地区や大原美術館があります。研究所にお越しの際にはそちらもお楽しみ頂ければと思います。

**【お問い合わせ先】**

岡山大学資源植物科学研究所 山本敏央

TEL: (086)434-1205 E-mail: [yamamo101040@okayama-u.ac.jp](mailto:yamamo101040@okayama-u.ac.jp)

### 3. 共同研究（者）紹介 =第 52 回（連載）=

毎月ご紹介しています、拠点共同研究の研究者紹介の記事です。今回は、東京理科大学基礎工学部生物工学科 有村 源一郎 先生からのご寄稿です。

「植物の相互作用をグローバルな視点で紐解く！」

東京理科大学基礎工学部生物工学科 有村 源一郎

植物から放出される匂いは、植物の生存戦略において重要な役割を担う。例えば、植物は害虫に被食されると、害虫のエリシターや物理的傷害を認識することで防御応答を活性化させ、天敵を惹きつける香りブレンドを大気中に放出する。さらに、これらの香りは周囲の未被害植物に受容されることで未然に虫害抵抗性を高めることができる。我々は、これらの作用機序を明らかにすると共に、このような生態系サービスを害虫防除に応用するための基盤を構築している。その中で、Ivan Galis 教授ならびに新屋友規准教授には、植物ホルモンの解析やディスカッション等で大変お世話になっている。近年は、難防除害虫であるハダニからエリシター分子の同定にも成功し、当該共同研究は順調に進んでいる。今年が私が東京理科大学に赴任してから7年目であり、今後は植物の食害ストレス科学の発展に加え、植物、昆虫、微生物、実験動物等を用いたグローバルな生物間相互作用研究分野にも挑みたいところである。この拠点共同研究などを通して、多様な分野の研究者に出会い、共同研究およびディスカッションを図ることで、これまでに無い新領域を開拓していきたい。

Released article:

Iida J, Desaki Y, Hata K, Uemura T, Yasuno A, Islam M, Maffei ME, Ozawa R, Nakajima T, Galis I, Arimura G-I (2019) Tetranins: new putative spider mite elicitors of host plant defense. *New Phytologist*: Early View Online Version.

<https://doi.org/10.1111/nph.15813>

### 4. 最近の研究成果について

植物病原糸状菌アルタナリアの病原力低下を誘導する新規ハイポウイルスの同定

Li, H., Bian, R., Liu, Q., Yang, L., Pang, T., Salaipeth, L., Andika, I.B., Kondo, H., Sun, L.

Identification of a Novel Hypovirulence-Inducing Hypovirus From *Alternaria alternata*.

*Frontiers in Microbiology* 10: 1076 (2019)

LARGE GRAIN はイネの小穂長を調節する推定 RNA 結合蛋白質をコードする

Chiou, W.Y., Kawamoto, T., Himi, E., Rikiishi, K., Sugimoto, M., Hayashi-Tsugane, M., Tsugane, K., Maekawa, M.

LARGE GRAIN Encodes a Putative RNA-Binding Protein that Regulates Spikelet Hull Length in Rice.

*PLANT AND CELL PHYSIOLOGY* 60: 503-515 (2019)

### 5. 投稿のお願い

本メールマガジンや Web サイト (<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>) では、

植物ストレス科学の研究成果や研究に関する情報の共有を目指しています。PSSNetメンバーの皆様の最新の論文、関連集会やセミナーの案内、人材募集などの共有可能な情報の投稿をお待ちしております。

ご希望の方は、[pssnet-admin@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnet-admin@okayama-u.ac.jp) 宛に情報をお送りください。

## 6. 編集後記

昨年7月の西日本豪雨から1年が経ちました。この豪雨では、資源植物科学研究所のある倉敷市でも真備地区で堤防が決壊するなどして、大きな被害が出ました。先月には、決壊した堤防の修復工事が完了したことがニュースになっておりましたが、今なお7,000人以上の方が仮住まいをされている状態です。本研究所の位置する倉敷市中心部では大きな被害は無かったものの、しばらくは海外からの観光客も減り静まり返っていたことを思い出します。

私が本研究所に着任した頃は、「晴れの国おかやま」にも、短いながらもシトシトと降る梅雨の時期があったと記憶しております。ところが、近年は、春から秋にかけての降雨時は「突然、強い雨が降り出して、短時間で止む」ことが多いように感じます。この時期の長雨もシトシトといった感じではなく、台風よりも強い雨が波状攻撃のように降ってきます。上記の水害も、そんな雨によって引き起こされました。このように、「倉敷の環境も、この10年余りで大きく変わってしまった」と思うと同時に、10年という短いスパンでの大きな変化に驚嘆します。

このような急速に変わりゆく環境の中で、私たちにできることは、植物ストレス科学研究ネットワークを通じて、また、皆様方との共同研究により、植物の環境応答機構に関する知を集積、活用して、新たな環境に適応可能な作物の作出に関わって行くことと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

\*\*\*\*\*

「植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン」

■発行日 2019年7月12日

■発行元 岡山大学資源植物科学研究所

植物ストレス科学研究ネットワーク (PSSNet) 委員会

■WEBサイト <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>

メールマガジン登録変更・解除の手続きは

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/Registermember.htm>

をお願いします。

\*\*\*\*\*

(このメールは岡山大学職員が配信しています)

---

pssnetml mailing list

[pssnetml@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnetml@okayama-u.ac.jp)